

令和5年度 宮の原小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標 豊かな人間性を持ち、主体的・創造的に生きていくことができる健康でたくましい子どもの育成
目指す子ども像 「本気で学べ」「元気に遊べ」「正しく生きよ」「喜んで働く」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童一人一人が自分のよさや可能性を伸ばせる学校、教職員が働きがいを実感できる学校、家庭や地域との連携・協働による地域とともにある学校づくりを目指す。

「学びのある学校」 豊かな体験を通して、自信をもち自立した子どもを育む学校

「活気ある学校」 心身ともに健康で、のびやかな子どもを育む学校

「笑顔いっぱい为学校」 友達と活動し、ともに生きる喜びを感じる学校

「地域とともにある学校」 家庭、地域と協働して子どもを育む、地域に開かれた学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1） 知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育む教育を実践し、カリキュラムマネジメントにより学習効果の向上を図るとともに、本年度の重点目標について学校・保護者・地域が共有しながら特色ある教育活動「宮小けやきプラン 2023」を推進する。
- （2） 全ての教職員が学校経営の理念に基づき目標を共有化し、自己研鑽に努めながら児童一人一人を大切にした教育活動を実践する。また、教職員が生き生きと健康で働きがいを実感できるよう、働き方改革の視点に立ち、リフレッシュウィーク等の勤務時間を意識した働き方の推進や業務の適正化を目指す。
- （3） 地域協議会と連携しながら、地域教育力の積極的な活用と人材発掘、地域行事との連携、積極的な情報発信と学校公開等を通して家庭・地域と一体となった地域に根差した取組の充実を図り、地域とともにある学校づくりに努める。一条地域学校園（小中4校）の連携強化により、積極的な情報共有と児童生徒の実態に即した取組を通して小中一貫教育を推進する。
- （4） ○小中一貫教育の推進 小中4校の連携強化（積極的な情報共有）と児童生徒の実態に即した取組の推進

【一条地域学校園教育ビジョン】基本をしっかりと身に付け、地域に生きる子どもを育む一条地域学校園

4 教育課程編成の方針

- （1） 教育基本法、学校教育法及び同施行規則、新小学校学習指導要領の示すところに従うとともに、「栃木県教育振興基本計画 2025」及び「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策」の趣旨に基づきながら、本校児童の実態を踏まえ、教育目標の具現化が図られるよう調和と統一のある教育課程を編成する。
- （2） 本年度の経営方針、努力点や具体策、前年度活動の評価等を踏まえ、地域社会の実情・児童の心身の発達段階や特性・子どもの育成にかかわる多くの関係者の願いを考慮し、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指した特色ある教育活動「宮小けやきプラン 2023」を推進する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

・「本気で学べ」「元気に遊べ」「正しく生きよ」「喜んで働く」を目指す子ども像として、全教職員が協働し活気ある学校づくりに努め「宮小けやきプラン 2023」を推進

○「小中一貫教育と地域学校園」の取り組みの推進

【学 習 指 導】

・自分の思いや考えをもち、進んで伝え合い、学び合う児童の育成

【児 童 生 徒 指 導】

・人とかかわりを通して、きまりを守ったり人を思いやったりすることができる児童の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

・自らの健康と安全に関心をもち、進んで体力づくりに励む児童の育成

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

[illegible]

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケートの「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」⇒児童の肯定的回答 90%以上	・養護教諭や学校栄養職員が保健指導や食育指導に積極的に関わったり、「食育だより」や「保健だより」を発行したりして、児童や保護者に健康についての意識付けを図る。 ・児童会活動を中心に健康や安全について呼びかける機会を設ける。 ・登校指導や下校指導に加え、定期的な班長による振り返りを行うなどして、継続的に安全な登下校の指導を行う。 ・地震・火災、不審者対応、竜巻等あらゆる災害を想定した避難訓練を行い、安全な生活の意識付けを図る。	【達成状況】A4 (○) <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td></td><td>100</td><td>92.4</td><td></td></tr> <tr> <td>96.2</td><td>90.9</td><td>94.2</td><td>100</td></tr> </table> ・委員会活動を工夫したり、養護教諭や学校栄養職員による保健指導や食育指導をしたりすることにより、健康について身近に考える機会を増やすことができた。 ・交通安全教室や災害時に自分の身を守る方法の訓練を実施し、児童への意識付けを図ってきた。 ・年間の計画にしたがい、健康や安全についての指導を行ってきた。 【次年度の方針】 ・健康な生活や安全な生活について、引き続き意識付けを図っていく。	児童	教職員	保護者	地域		100	92.4		96.2	90.9	94.2	100
児童	教職員	保護者	地域												
	100	92.4													
96.2	90.9	94.2	100												
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】全体アンケートの「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	・学級活動や児童会活動を通して、生活をよりよくするためにできることを考えたり、協力して活動する場面を設定したりする。 ・キャリアファイル等を活用し、自分の成長を見つめることで、段階的に成長を実感させる。	【達成状況】A5 (○) <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>96.2</td><td>100</td><td></td><td></td></tr> </table> ・学級活動や児童会活動を通して、生活をよりよくするためにできることを考え、協力して活動させてきた。 ・定期的に自分の成長を見つめる機会を設け、成長の実感をもたせた。 【次年度の方針】 ・児童が自分たちの生活を見つめ直し、改善策を考えていけるよう、働きかけていく。	児童	教職員	保護者	地域					96.2	100		
児童	教職員	保護者	地域												
96.2	100														
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケートの「私は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	・コミュニケーションツールの一つとして、個人用パソコンを利用して、自分の考えを表現できるようにする。 ・スモールトークを積極的に活用し、教師とALTのやり取りから教師と児童とのやり取りへと繋げていく授業づくりをする。 ・クラスルームイングリッシュを活用し、授業中の英語の割合を増やす。	【達成状況】A6 (○) <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td></td><td>90.9</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>90.9</td><td>100</td><td></td><td></td></tr> </table> ・高学年は、外国語の授業を通して、英語での表現に触れる機会を多く持つことができた。 ・中学年以下は、ALTとのやり取りを真似して積極的に英語に親しんだ。 ・クラスルームイングリッシュを活用し、授業中の英語の割合を増やすことができた。 【次年度の方針】 ・スモールトークを積極的に活用し、教師とALTのやり取りから教師と児童とのやり取りへと繋げていく授業づくりをする。 ・授業以外の場面でも積極的に英語に触れる機会を設けるようにする。	児童	教職員	保護者	地域		90.9			90.9	100		
児童	教職員	保護者	地域												
	90.9														
90.9	100														

	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	- 生活科・社会科・総合的な学習における校外学習、地域人材との協力の中で、地域や宇都宮に興味をもてるよう学習を進める。 - 上記の学習のまとめを家庭にも発信する。 - 宇都宮市のイベントや行事などのお知らせを配付する際や給食の宮っ子ランチのときには、宇都宮の良さを知らせるようにする。 - 宇都宮学の副読本を活用し、宇都宮の自然や交通、伝統文化に目を向けさせるようにする。	【達成状況】A7 (○) <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>91.7</td><td>95.5</td><td>73.2</td><td></td></tr> <tr> <td>95.5</td><td>95.5</td><td>75.5</td><td></td></tr> </tbody> </table> - 社会科の学習や総合的な学習の時間の宇都宮学を通して、宇都宮に興味をもち、良さを実感できるような体験学習や調べ学習を取り入れてきた。また、お知らせを配布する際や宮っ子ランチの際にも、宇都宮の良さを口頭や紙面で伝えた。 【次年度の方針】 - 生活科・社会科・総合的な学習における校外学習等、地域人材との協力の中で、地域や宇都宮に興味をもてるよう学習を進める。また、学習の成果を教室に掲示したり、ホームページに掲載したりして、保護者にも発信する。 - 給食の宮っ子ランチや宇都宮市のイベント・行事などのお知らせを配付する機会を活用して、宇都宮の特色を知らせるようにする。 - 宇都宮学の副読本を活用し、宇都宮の自然や交通、伝統文化に目を向けさせるようにする。	児童	教職員	保護者	地域	91.7	95.5	73.2		95.5	95.5	75.5	
児童	教職員	保護者	地域												
91.7	95.5	73.2													
95.5	95.5	75.5													
2-(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケートの「私は、パソコンや図書等を学習に活用している。」⇒児童の肯定的回答 90%以上	- 児童が個人用パソコンや図書資料を効果的に使えるような授業展開に努め、児童が機器や図書に触れる機会を多く設定する。 - 個人用パソコンを活用し、教職員がICT機器等を授業の中で効果的に使用できる場を研究し、学習効果を高めていく。 - 総合的な学習の時間などの調べ学習では、個人用パソコンと図書双方の特性を理解し、内容に応じて活用できるよう支援していく。 - 発表や練習の様子・作品の撮影、デジタルドリルの活用、調べ学習、意見交換等こまめに繰り返し個人用パソコンを活用する。 - 図書資料やパソコンを活用している様子をHPや学年だより等で発信する。	【達成状況】A8 (○) <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>100</td><td>89.1</td><td></td></tr> <tr> <td>95.8</td><td>100</td><td>86.0</td><td></td></tr> </tbody> </table> - ICT機器や図書資料を効果的に使える授業計画をし、積極的に学校図書館司書業務嘱託員やICT支援員の授業への参画を図った。 - 個人用パソコンを効果的に活用できる機会を研究し、実際に授業で使用させていくことで、学習効果を高められるよう工夫した。 【次年度の方針】 - 児童が個人用パソコンや図書資料を効果的に使えるような授業展開に努め、児童が個人用パソコンを活用したり、図書に触れたりする機会を多く設定する。 - 個人用パソコンを適切に活用し、授業の中で効果的に使用できる場を継続して研究し、学習効果を更に高めていく。 - 国語や総合的な学習の時間などの調べ学習では、個人用パソコンと図書双方の特性を理解し、内容に応じて活用できるよう支援していく。 - 図書資料やパソコンを活用している様子をHPや学年だより等で発信する。	児童	教職員	保護者	地域		100	89.1		95.8	100	86.0	
児童	教職員	保護者	地域												
	100	89.1													
95.8	100	86.0													

2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体アンケートの「私は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	・環境美化委員会による、電力・水道水の節約の呼びかけや古紙回収活動を通して、身近にできるエコ活動を推進する。 ・栽培委員会の花壇の植え替え、児童会の落ち葉集めなどの活動を全校児童に周知することで、環境保全の意識を高めていく。 ・各教科の授業で環境や防災を意識した指導をしていく。 ・ESDのどの概念の理解を深めるものにつながるのかを、意識して指導する。 ・生活目標にSDGsの視点を取り入れる。	【達成状況】A9 (○) <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td></td><td>86.4</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>95.8</td><td>90.9</td><td></td><td></td></tr> </table> ・児童会の落ち葉集めや環境美化委員会の古紙回収・ペットボトルキャップ回収を通して、身近にできるエコ活動を行ってきた。 ・生活科、理科、道徳の授業や栽培員委員会の活動等で、動植物を大切にすること意識向上に努めた。 ・学級では、ごみを可燃・プラスチック・リサイクルに分別し、ごみの量を減らす取り組みを行ってきた。 【次年度の方針】 ・学級でごみを減らすための取り組みを児童に伝え、実践していく。 ・環境美化委員会による、電力・水道水の節約の呼びかけや古紙回収、ボランティア委員会のペットボトルキャップ回収、栽培委員会の花壇の花の植え替え、児童会の落ち葉集めなどの活動を全校児童に周知することで、環境保全の意識を高めていく。 ・各教科の授業の中で環境や防災を意識した指導をしていく。 ・生活目標にSDGsの視点を取り入れる。	児童	教職員	保護者	地域		86.4			95.8	90.9		
児童	教職員	保護者	地域												
	86.4														
95.8	90.9														
3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童(生徒)の実態に応じて、適切な支援をしている。」⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・校内での実態調査や校内支援委員会で把握した児童のもつ課題について情報を共有するとともに、個別の支援を行う。児童の実態に応じて、かがやきルームや特別支援学級の利用も検討する。また、必要に応じて関係機関との連携を図る。 ・学習支援に関しては、朝の学習時間の活用や、習熟度別学習及びチームティーチングを行い、手厚い支援をしていく。	【達成状況】A10 (◎) <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr> </table> ・校内での実態調査や校内支援委員会で上がってきた児童に対して、情報を共有し、家庭との連携を図り、支援の必要な児童に寄り添った個別の支援を行った。必要に応じて、スクールカウンセラーやかがやきルーム、特別支援学級の利用活用も検討した。 ・学習支援については、朝の学習タイムや習熟度別学習及びチームティーチングなどを活用し、基礎基本の定着を図った。 【次年度の方針】 ・今後も校内での支援体制を整え、児童の実態に応じて特別支援学級への編入や、かがやきルームの利用などを検討していく。また、必要に応じてスクールカウンセラーや関係機関との連携を図る。 ・学習支援に関しては、朝の学習時間の活用や、習熟度別学習及びチームティーチングを行い、手厚い支援をしていく。	児童	教職員	保護者	地域						100		
児童	教職員	保護者	地域												
	100														

A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。
【数値指標】全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」
⇒児童の肯定的回答
90%以上

- ・いじめに関するアンケートや教育相談を有効に活用し、事実の把握に努めると共に、いじめは許されない行為であることを徹底できるよう、いじめゼロ運動等の様々な機会を生かして、継続的な指導を行う。
- ・GIGAスクールの推進に伴い、インターネットのモラルやマナーを学ぶ機会を設け、ネット上でのいじめ問題にも触れるようにする。
- ・HPや学年だより等で取り組みについて積極的に情報を発信する。

B

【達成状況】A11 (○)

児童	教職員	保護者	地域
99.3	100	85.4	
98.6	100	85.9	93.8

- ・いじめに関するアンケートや教育相談の機会を有効に活用し、児童の実態の把握に努め、安心して学校生活が送れるように、常に指導にあたった。
- ・いじめゼロ運動の標語を発達段階に応じて家庭でも児童と一緒に考えてもらうことで、保護者にもいじめ防止に対する意識付けを図った。
- ・インターネットのモラルやマナーを学ぶ機会を設け、ネット上でのいじめ問題にも触れる機会を設けた。

【次年度の方針】

- ・いじめに関するアンケートや教育相談の活用を継続し、いじめに関わる事実の把握に努める。また、いじめゼロ運動などの機会を生かして、いじめは許されない行為であることを継続して指導していく。
- ・個人用パソコンの導入により、ネット上のトラブルが全国的に課題になっているので、道徳や学活の授業を通して情報モラルへの関心を高められるように指導を図っていく。
- ・HP等で取り組みについて積極的に情報を発信し、保護者への啓発を図っていく。

A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。
【数値指標】全体アンケートの「先生方は、一人一人を大切にし、児童（生徒）がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」
⇒児童の肯定的回答
90%以上

- ・教師が中心となり、児童同士が認め合えるような機会や雰囲気づくりを心掛ける。また、学級の係活動や特別活動の中で自己有用感を感じられる場を設ける。
- ・行き渋りなどの兆候が見られた時には、保護者との連絡を密にしたり、校内不登校対策委員会を開催し関係機関につないだりする。
- ・学校キラリ賞の機会を活用し、学級学年内で互いの良さに気づき認め合う雰囲気作りに努める。

B

【達成状況】A12 (○)

児童	教職員	保護者	地域
98.9	100	94.2	
98.3	100	92.7	

- ・日常生活や学習場面の中で、自己有用感を感じられるような活動を意識した。
- ・学級に居がい感があり、安心して学校生活を送れるように、多様な意見やお互いを認め合う機会を設けた。
- ・温かな言葉かけを意識したり教育相談を活用したりした。
- ・行き渋りなどの兆候が見られた時には、保護者との連絡を密にしたり、職員間で情報共有をしたり、スクールカウンセラーへの相談を勧めたりした。

【次年度の方針】

- ・教師が中心となり、児童同士が認め合えるような機会や雰囲気づくりを心掛ける。また、学級の係活動や特別活動の中で自己有用感を感じられる場を設ける。
- ・行き渋りなどの兆候が見られた時には、保護者との連絡を密にしたり、校内不登校対策委員会を開催しスクールカウンセラーや関係機関につないだりする。
- ・保護者の肯定的割合が低下しているので、HPや学年だより等で取り組みについて積極的に情報を発信する。

3-(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活があり、明るいきいきとした雰囲気である。	・なかよしタイム等の縦割り班活動の充実。児童会主体のあいさつ運動、特別活動や学校行事を通して、主体的に「人とのかかわる力」を育てる。	【達成状況】A13 (○) <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>97.6</td><td>100</td><td>89.3</td><td>100</td></tr> </table>	児童	教職員	保護者	地域	97.6	100	89.3	100				
児童	教職員	保護者	地域												
97.6	100	89.3	100												
3-(4) 多様な教育的ニーズへの 対応の強化	【数値指標】全体アンケートの「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	・HP や学年だより等で子どもたちが生き生きと活動している様子を積極的に発信する。	・縦割り班活動（なかよしタイム、ウォークラリー）やあいさつ運動、いじめゼロ運動などを通じて「人とのかかわる力」を伸ばす児童が多く見られた。 【次年度の方針】 ・児童会活動や特別活動、学校行事を通して明るい雰囲気づくりに努める。 ・縦割り班活動を通して、互いに認め合える雰囲気を作る。 ・HP や学年だより等で取り組みについて積極的に情報を発信し、保護者への啓発を図っていく。												
4-(1) 教職員の資質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は、勉強を分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	・児童の実態に即した内容の指導の工夫を行う。 ・全校体制で、課題の明確な提示や分かりやすい発問・板書を工夫し、児童一人一人が分かる授業を目指す。 ・授業の中で、ペア学習やグループ学習、話し合い、ホワイトボード、タブレット端末などを活用し、児童の主体的・対話的な活動を効果的に取り入れる。 ・校内研修サポート事業を活用し、個々の授業改善や子どもの見方について教師自らが学び、授業力の向上を図る。	【達成状況】A14 (○) <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>99.3</td><td>100</td><td>91.5</td><td></td></tr> <tr> <td>98.6</td><td>100</td><td>86.6</td><td></td></tr> </table> ・課題の明確な提示や分かりやすい発問・板書を工夫し、児童一人一人が分かる授業を目指したが、児童、保護者ともに肯定的回答が少し下がってしまった。 ・授業研究会を実施し、授業改善に向けて教師の意識と授業力を高めることができた。 【次年度の方針】 ・次年度も継続してICTの活用や授業研究会を行うことで、個々の授業改善や子どもの見方について、教師自らが学び、授業力向上を図る。	児童	教職員	保護者	地域	99.3	100	91.5		98.6	100	86.6	
児童	教職員	保護者	地域												
99.3	100	91.5													
98.6	100	86.6													
4-(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・校務分掌や学習指導、児童指導等において、OJTを促進し、若手教員の育成を図る。 ・個々の役割と責任を明確にした上で、同僚に対する気配りをしながら、相互に協力して業務を行う。 ・学級経営や校務分掌などで、心配や困ったことがある時には、周囲に相談したり、心配や困りごとを抱えている同僚には、周囲から声をかけたりし、皆で早期に改善を図る。	【達成状況】A15 (◎) <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr> </table> ・個々の役割を相互協力しながら行うことができた。 【次年度の方針】 ・継続して、校務分掌や学習指導、児童指導等において、相互に協力し、早期に解決を図るようにする。 ・継続してOJTを促進し、若手教員の育成を図る。	児童	教職員	保護者	地域		100				100		
児童	教職員	保護者	地域												
	100														
	100														

4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	・校内掲示板を活用した事務連絡、会議資料のデジタル化等、業務の見直しを図り、全体の効率化を目指す。 ・打合せや会議の内容を精選したり、関係者と事前に相談したりして回数・時間の削減を図る。 ・自分自身で毎日の勤務時間を意識し、(毎月の超過勤務時間45時間以内を目標に)するとともに、月1回のリフレッシュウィークを各自が有効活用し、定時退勤への意識を更に高めていく。	【達成状況】A16 (○) <table border="1" data-bbox="1038 147 1503 264"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>95.5</td><td></td><td></td></tr> </table> ・ミライムの掲示板やアンケート機能を有効活用し、打合せの回数や時間を減らすことで効率化を図ることができた。退勤時刻について、全職員が互いに意識し合うことで、超過勤務時間減少を意識する傾向が見られるようになった。 【次年度の方針】 ・打合せや会議の内容を精選し、回数・時間を削減するとともに、話し合う内容について各自が焦点化し効率よく進められるように工夫する。	児童	教職員	保護者	地域						95.5		
児童	教職員	保護者	地域												
	95.5														
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、児童生徒や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	・地域や学校園と連携した「小中一貫の日あいさつ運動」を継続して行い、さらに年2回小中合同実施を推進する。 ・クリーンアップキャンペーンに、地域住民や保護者が来校し、小学生とともに校庭清掃を実施する。 ・学習や体力の向上、図書館教育、食育(学校園統一献立)、児童生徒指導(いじめゼロポスター掲示)など様々な領域において学校園で取り組んでいることを児童に還元し、周知に努める	【達成状況】A17教職員 (○) <table border="1" data-bbox="1038 723 1503 840"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td>89.1</td><td></td></tr> <tr> <td>92.8</td><td>100</td><td>89.4</td><td>100</td></tr> </table> ・活動方法を工夫しながら行った。 ・地域学校園の取り組みを各種便り等で、児童・保護者に周知した結果、達成状況の向上につながった。 ・あいさつ運動を中心に児童が取り組みに参加する機会が増えた。 【次年度の方針】 ・地域学校園で連携し、相互交流をさらに深めていく。	児童	教職員	保護者	地域			89.1		92.8	100	89.4	100
児童	教職員	保護者	地域												
		89.1													
92.8	100	89.4	100												
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	・地域コーディネーターを活用して、教育活動全般にわたり協力を得られる人材を増やしたり、学校園で協力して人材確保に努めたりする。 ・企業の出前講座等を積極的に行ったり、地域人材の参画を得た授業を行ったりし、地域の教育力をさらに学校に取り入れていく。	【達成状況】A18 (○) <table border="1" data-bbox="1038 1182 1503 1299"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>94.6</td><td>100</td><td>92.5</td><td></td></tr> <tr> <td>95.8</td><td>100</td><td>93.2</td><td>100</td></tr> </table> ・授業内容を精査し、外部との連携が効果的か吟味し取り組むことを心掛けた。 【次年度の方針】 ・継続して、家庭・地域の人材の参画を得た授業や企業の出前講座等を積極的に行い、便りやHPで発信していく。	児童	教職員	保護者	地域	94.6	100	92.5		95.8	100	93.2	100
児童	教職員	保護者	地域												
94.6	100	92.5													
95.8	100	93.2	100												

6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	・教職員による校内施設等の定期的な安全点検を行い、結果の共通理解を図るとともに、不備な点は早急に対処する。 ・校内や学校周辺で危険が予想される時には、メールやホームページ、学校だより等により周知を図るとともに、学校の取組を積極的に発信する。	【達成状況】A19 (○) <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td></td><td>100</td><td>95.3</td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>100</td><td>92.1</td><td>100</td></tr> </table> ・月に一度安全点検を実施し、全職員で学校敷地内の点検場所を分担して、施設設備等の点検を計画的・組織的に行い、施設設備等に不備がある場合は、学校業務や機動班、市教委等に依頼し早急に対処した。 ・緊急性の有無や連絡の内容により、さくら連絡網を有効活用し、保護者や学校関係者に周知するとともに協力を要請した。 ・登下校時、危険が予想される箇所について周知し、地域と連携を図り安全に配慮した。 【次年度の方針】 ・定期的に丁寧な安全点検を実施し、不備の早期発見と早急な対応を行う。 ・児童の健康や安全に関する情報を適宜ホームページやさくら連絡網等で発信していく。	児童	教職員	保護者	地域		100	95.3			100	92.1	100
児童	教職員	保護者	地域												
	100	95.3													
	100	92.1	100												
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】全体アンケートの「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタル（一人一台端末、学校用グループウェア、校務支援システム、デジタル連絡ツールなど）を積極的に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	・ICT機器を学習内容に応じて活用しやすいように整備する。 ・児童や教師のニーズ、学習内容や発達段階に応じて活用していく。 ・タブレット端末の授業内での活用を図り、日常的に使用できるようにする。 ・ミライムの掲示板やメッセージ、アンケート機能等を、校務に活用していく。	【達成状況】A20 (◎) <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>95.5</td><td></td><td></td></tr> </table> ・ICT支援員の協力のもと、学習内容に応じて、積極的に活用し授業を行った。 ・教職員間で有効なタブレットの活用方法を共有し、授業に活用した。 ・ミライムの掲示板やメッセージ、アンケート機能等を、校務に積極的に活用した。 【次年度の方針】 ・継続して、ICT機器を学習内容に応じて活用し、指導の充実を図る。	児童	教職員	保護者	地域						95.5		
児童	教職員	保護者	地域												
	95.5														

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケートの「私は、時と場に応じたあいさつをしている」⇒児童の肯定的回答 90%以上	・家庭・地域と連携した「みやのはらあいさつ運動」を継続し、あいさつの定着を図る。（「みやのはらあいさつの日」毎月1日） ・家庭でもできるあいさつ運動を提案する。 ・教職員が率先してあいさつをする。 ・道徳や特別活動を中心に、発達段階に応じて、時間や相手に応じたあいさつを具体的に指導する。 ・代表委員会だけでなく、児童が主体的に参加できる「あいさつ運動」を実施し、意識を高めるようにする。	【達成状況】B1（○） <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td></td><td>95.5</td><td>87.4</td><td>100</td></tr><tr><td>93.4</td><td>100</td><td>92.9</td><td>100</td></tr></table> ・時と場に応じたあいさつを具体的にしたり、児童会や中学校と連携した「あいさつ運動」を展開したりしてあいさつの定着を図ってきた。また、ボランティアで「あいさつ運動」に参加する児童を募った。 ・児童会だよりで、家庭でもできるあいさつ運動や学校での取り組みを発信した。 【次年度の方針】 ・家庭や地域と連携しながら、あいさつ運動の実施を継続し「みやのはらあいさつの日」の周知を図っていく。 ・地域学校園で共通する目標を設定し、小中一貫した「あいさつ運動」を行う。 ・教職員も率先してあいさつをしながら、更に意識づけを図っていく。	児童	教職員	保護者	地域		95.5	87.4	100	93.4	100	92.9	100
	児童	教職員	保護者	地域											
	95.5	87.4	100												
93.4	100	92.9	100												
B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケートの「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」⇒児童の肯定的回答 90%以上	・「宮小3つの約束」「宮小こどものきまり」「学びのマナー」を活用し、共通理解を図りながら望ましい行動習慣の形成に努める。 ・生活目標について全職員で共通理解しながら、継続的に指導する。児童が個人用パソコンを使って、自分の生活を振り返る機会を設けたり、他の児童に広げたりする活動を行う。 ・生活目標について、児童会を中心にきまりやマナーについて呼びかける期間を設ける。	【達成状況】B2（○） <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td></td><td>100</td><td>92.3</td><td></td></tr><tr><td>95.8</td><td>100</td><td>93.6</td><td>93.8</td></tr></table> ・「宮小3つの約束」「宮小こどものきまり」「学びのマナー」を全職員で共通理解を図り、学校生活目標に活かすなどして望ましい行動習慣についての呼びかけを行った。 ・学校生活目標について、帰りの会などで自身の生活態度を振り返る時間を設けた。 【次年度の方針】 ・引き続き「宮小3つの約束」「宮小こどものきまり」「学びのマナー」を活用し、共通理解を図りながら指導の充実を図っていく。 ・児童会が中心となって、発信を行ってさらに児童の意識の向上を図っていく。 ・「学校生活目標」について、児童が目標を守って生活しようとする意識が高まるように、引き続き放送で呼びかけたり振り返りの機会を設けたりする。	児童	教職員	保護者	地域		100	92.3		95.8	100	93.6	93.8	
児童	教職員	保護者	地域												
	100	92.3													
95.8	100	93.6	93.8												

	B3「魅力ある学校づくり地域協議会」を有効活用し、学校経営の充実を図る。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、学校で課題となっていることを積極的に説明し、協議会の意見を反映している。」 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	・学校の現状や課題となっていることを地域協議会の場で説明し、そこでの意見を反映するとともに、課題を共有して課題解決にあたる。 ・地域協議会を中心に、地域人材を効果的に活用した学校行事や授業を実施し、学校教育の充実に努める。	【達成状況】B3（◎） <table border="1" data-bbox="1038 147 1505 264"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td></td><td>100</td><td></td><td>100</td></tr> <tr> <td></td><td>100</td><td></td><td>100</td></tr> </table> ・地域協議会において、学校経営方針や課題を説明し、地域と学校が連携・協力した活動を実施するよう心掛けた。 ・あいさつ運動や登下校指導、地区内の環境点検等で、地域の方々の積極的な協力を得ることができた。 【次年度の方針】 ・地域人材の活用を推進し、学習支援や地域との交流など効果的な体験活動を積極的に実施する。 ・協議会と連携を図り、学校教育が一層充実するよう努める。	児童	教職員	保護者	地域		100		100		100		100
児童	教職員	保護者	地域												
	100		100												
	100		100												
	B4 児童は、学校生活の中で、係や当番・清掃・仕事などの活動に進んで取り組んでいる。 【数値指標】学校独自質問の「わたしは、お手伝いや係の仕事、ボランティア活動などをしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	・ボランティア活動について、児童会が主体となって呼びかけたり、活動の様子を学校だよりや学校ホームページ、児童会だよりなどの様々なツールで紹介したりして、意欲を高めたり、充実感を味わわせたりする。 ・道徳の時間などでボランティアの意義や助け合うことの大切さを教える。 ・係活動や当番活動、縦割り班活動を通して、働くことの意義を学び、達成感や喜びを味わわせる。	【達成状況】B4（○） <table border="1" data-bbox="1038 745 1505 869"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>94.6</td><td>100</td><td>91.2</td><td>100</td></tr> <tr> <td>96.2</td><td>100</td><td>93.3</td><td>100</td></tr> </table> ・落ち葉掃きや募金活動等のボランティア活動について、児童会が主体となって呼びかけたり、活動の様子を学校だよりや児童会だよりなどで紹介したりして、意欲を高めていった。 ・道徳の時間などでボランティアの意義や助け合うことの大切さを理解できるようにした。 ・係活動や当番活動を各クラスで工夫し、働くことの意義を学び、喜びを味わわせられるように努めた。 【次年度の方針】 ・ボランティア活動について、児童会が主体となって呼びかけたり、活動の様子を学校だよりや学校ホームページ、児童会だより、学年だよりなどの様々なツールで紹介したりして、意欲を高めたり、充実感を味わわせたりする。 ・道徳の時間などでボランティアの意義や助け合うことの大切さを考えさせる。 ・係活動や当番活動を通して、働くことの意義を学び、達成感や喜びを味わわせる。	児童	教職員	保護者	地域	94.6	100	91.2	100	96.2	100	93.3	100
児童	教職員	保護者	地域												
94.6	100	91.2	100												
96.2	100	93.3	100												

	B5 家庭学習の習慣が身に付いている。 【数値指標】学校独自質問の「わたしは、決められた宿題に取り組んだり、工夫して自主学習に取り組んだりしている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	・家庭学習カレンダー＆振り返りカードを活用して宿題や音読、自主学習に継続的に取り組めるようにする。 ・学年ごとに、発達段階に応じた自主学習の内容と方法を具体的に示し指導する。 ・家庭学習の定着の意義や学校での指導内容を、学級懇談会や学年だより等で保護者に知らせ、より一層の理解や協力を得られるように努める。 ・「家庭学習強化週間」を実施し、期間中の家庭学習カードに、児童が目標を設定して取組について振り返ったり、保護者のコメントをもらったりする欄を設け、取組の徹底・充実を図る。	【達成状況】B5（○） <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89.6</td><td>100</td><td>78.7</td><td>100</td></tr> <tr> <td>90.2</td><td>100</td><td>78.2</td><td>100</td></tr> </tbody> </table> ・児童の家庭学習の取り組みについて、認め励ましたり、アドバイスをしたりして意欲を高めてきた。 ・「家庭学習強化週間」を実施し、家庭も巻き込んだ取り組みを行い、充実を図った。 【次年度の方針】 ・学習環境や学習内容の工夫・充実について教育相談等を活用して児童や保護者に具体的に助言・提案をしていく。	児童	教職員	保護者	地域	89.6	100	78.7	100	90.2	100	78.2	100
児童	教職員	保護者	地域												
89.6	100	78.7	100												
90.2	100	78.2	100												
	B6 児童は、本をよく読んでいる。 【数値指標】学校独自質問の「わたしは、本を読んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	・「本はともだちプロジェクト」の実践、家読（うちどく）の奨励等を通して、家庭読書の充実を図る。 ・読書の質の深化を図るような図書室利用を工夫する（学校司書と連携した読書指導の実践・個に応じた選書支援（読書コンシェルジュ）・学校のオアシスとしての環境づくり、蔵書の充実）。 ・多読者の表彰の場を継続して読書への意欲を高める。 ・読んだ本の感想を記録・蓄積し、共有する機会をつくることで、読書の幅を広げる。 ・けやき読書週間中は、朝の学習を読書、また、家庭学習で読書の宿題を出し、集中して読書に取り組む。 ・学校ホームページに読書活動の様子をアップし、保護者や地域の方に取組が伝わるように発信していく。 ・個人用パソコンでの新刊紹介など、パソコンの活用が読書活動に結びつくような取り組みを行う。 ・読み聞かせボランティアの活動を、学校だよりやホームページで発信していく。	【達成状況】B6（○） <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>81.3</td><td>100</td><td>57.9</td><td>100</td></tr> <tr> <td>78.0</td><td>100</td><td>62.5</td><td>81.8</td></tr> </tbody> </table> ・多読者を表彰する、借りた本の数が一定数に達した児童にプレゼントをする等の活動を昨年度と同様に行ったが、児童の肯定的回答は3.3%下がってしまった。 ・家読、ブックレター等の取り組みを通して、保護者にも協力を得、家庭読書の充実を図ることができた。 【次年度の方針】 ・「本はともだちプロジェクト」の実践、家読（うちどく）の奨励等を通して、家庭読書の充実を図る。 ・多読者の表彰の場を継続して読書への意欲を高める。 ・けやき読書週間中は、朝の学習を読書の時間としたり、家庭学習で読書を宿題に出したりして、児童が集中して読書に取り組むようにする。	児童	教職員	保護者	地域	81.3	100	57.9	100	78.0	100	62.5	81.8
児童	教職員	保護者	地域												
81.3	100	57.9	100												
78.0	100	62.5	81.8												

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・今年度、宇都宮市共通の質問20問と、学校独自の質問6問でアンケートを実施した。「肯定的回答割合が昨年度よりも5ポイント以上増加、または市全体より5ポイント以上高い」の項目を取組の成果が認められたものとした。一方、「肯定的回答割合が昨年度よりも5ポイント以上減少、または、肯定的回答割合が80%未満」の項目を取組の成果が十分ではなかったものとした。

○小中一貫教育・地域学校園の取組については、中学校との交流をできるだけ進めてきた、一条中ネットワーク会議への参加、定期的な中学校・地域合同のあいさつ運動、中学生による運動会でのボランティア活動、さらには、図書館教育・食育の地域学校園で共通しての取り組みも行ってきた。その結果A17「学校は、小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。」の教職員・保護者・地域の肯定的回答割合が市全体と比較して5ポイント以上高く、B1「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」の保護者の肯定的割合は昨年度より5ポイント以上高くなっている。

・郷土宇都宮に関することで、A7「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。」の児童・教職員の肯定的割合は市の結果を上回っている。その一方で、保護者の肯定的割合は昨年度より上昇はしているものの、80%を下回っている。個人用パソコンを利用した調べ学習や副読本等の図書資料を用いた学習をより充実させる必要があるとともに、宇都宮について普段の何気ない話から、宇都宮に関する良さを担任からもっと伝えたいと考える。そして。学んだことを家庭で共有するよ

うに声を掛けたいと思う。

・本校の取り組みとして「人とのかわりを通して、きまりを守ったり人を思いやったりすることができる児童の育成」を掲げてきた。児童は、学校やクラスでの決まりを意識し、友達のことを考え学校生活を送っていた。A2「児童生徒は、思いやりの心をもっている。」の児童の肯定的割合は市全体より上回っているが、保護者の肯定的割合は昨年度より5ポイント以上低くなっている。道徳教育を要として、思いやりの心の大切さを感じさせたり考えさせたりしようと努めてきたが、十分とはいえなかった。学校・学級という場面で児童同士の関わりについて。今一度児童達に考えさせ、どんな関わり方が大切なのかに気付かせたい。

・学習に関して、児童はICT機器や図書資料を効果的に学習に活用していると感じている児童は多く、家庭でデジタル機器を使った学びの様子もうかがえる。その傾向からか、B6「児童は本を読んでいる。」の保護者の肯定的割合は昨年度より5%以上高くはなったが、児童・保護者の肯定的割合は80%を下回っていた。個人用タブレットの利用が、以前と比べかなり大きくなり、その時間が読書時間に影響してしまっているのではと考えられる。また、B5「児童は宿題や自主学習をしている。」の保護者の肯定的割合は80%を下回っている。今まで積み重ねてきた学習のやり方の良さを今一度考え、ICT機器の良さとの両者のよさを考えバランスよくできるようにしたいと考える。また、「家庭学習強化週間」を実施し、児童が振り返りを行ったり、保護者のコメントをもらったりすることだけでなく、日常的な取組も充実できるようにしたいと考える。

7 学校関係者評価

- ・情操面を育てる意味でも、環境整備は大切。その中で、花壇、プランターが整備されているのは良いことだと思う。先生方にも感謝。
- ・読書に関して。教科書の音読をするだけでなく、図書の本でも音読を行ってみては。
- ・宿題、自主学習について。保護者の評価が低いのはなぜか。理由としては、宿題は子どもが自主的にやっているため、実際に宿題に取り組んでいる姿がみられなかったり、結果に結びついていない部分もあったりするのではと考える。また、自主学習の宿題も出ていて、その際、個人用PCを使っている様子が見られ、その姿は従来の学習の姿と違う感があったのでは。個人用PCの使用について、十分考えてほしい。また、回答率を上げることも大切か。
- ・思いやりについて。保護者の評価は下がってしまった。児童の状況が知れたかったが、昨年度と質問が異なり、比較できないところもある。次年度以降の変化を見ていく必要がある。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校経営】

・学校教育目標である、「本気で学ぶ子・元気で遊ぶ子・正しく生きる子・喜んで働く子」の育成を目指すために、「宮小けやきプラン」を策定し、学習・学校行事・日常生活・家庭や地域との連携の場など、様々な場面で具体的な取組を推進していく。

○一条地域学校園（小中4校）の連携により、積極的に情報共有を図ったり児童生徒の実態に即した取組を行ったりして9年間を見据えた小中一貫教育を推進する。

【学習指導】

・普段の学習で、個人用パソコンと図書双方の特性を理解し、内容に応じて適切に活用できるよう支援していく。また、家庭学習の意義や学校での指導内容や個人用パソコンの有効な扱い方等について、学級懇談会や学年だより等で保護者に知らせ、より一層家庭での理解や協力を得られるように努める。

・多読者表彰の場を設定したり、読んだ本の感想を記録・蓄積して共有する機会を作ったりすることで、読書に取り組んでいる実感を味わわせる。学校司書と連携し読書の質の深化を図るような図書室利用を工夫していく。

【児童指導】

・縦割り班で行われる、児童会を中心とした活動や清掃活動において、異学年や友達との交流を大切にしながら多くの人と関わりをもつ機会を作る。また道徳教育を中心として、互いを大切にしようの心を育て、自分と異なる友達の存在に気付き、きまりを守り、人を思いやることができる児童の育成を目指す。

【健康（体力・保健・食・安全）】

○体力づくり推進のために、地域学校園共通の各種学習カードを活用し運動意欲の向上を目指す。

○食に関する指導を充実させるために、マナー月間の設定、お弁当の日等を地域学校園で共通して行う。

・地域で行われる地域防災訓練に全校児童で参加し、自分ができることを行うことで、自分にも安全を担う地域のための役割があることを理解できるようにする。